

建物の被害程度の認定事例






～第2次調査・(3)部位による判定をした結果、「一部損壊」となる場合～

災害に係る住家の被害認定基準運用指針 参考資料(損傷程度の例示)/内閣府による。

【事例】 ○木造1階建ての建物

○損傷があった部位 : 外壁・内壁・基礎・屋根・建具

○損傷があった部位の損傷程度: 外壁・内壁・屋根⇒程度Ⅱ、建具⇒程度Ⅰ、基礎⇒10%

部位名	構成比	損傷例示		損傷程度 (Ⅰ～Ⅴ段階)	損傷部分 の割合	各部位の 損傷率
外壁	10%		塗り壁の各所で、仕上げの脱落が生じている。	程度Ⅱ (25%)	40% (全外壁面積に対する割合)	1%
内壁	10%		ボードの目地部にひび割れやずれが生じている。	程度Ⅱ (25%)	80% (全内壁面積に対する割合)	2%
床	10%		損傷なし。	—	—	0%
基礎	10%		基礎の局部破壊が生じている。	—	10% (基礎外周長に対する割合)	1%
柱・耐力壁	15%		損傷なし。	—	—	0%
屋根	15%		棟瓦のずれ、破損、落下が著しいが、その他の瓦の破損は少ない。	程度Ⅱ (25%)	50% (全屋根面積に対する割合)	2%
天井	5%		損傷なし。	—	—	0%
建具	15%		可動部、カギにわずかな変形が生じ、開閉が困難になっている。	程度Ⅰ (10%)	40% (全建具面積に対する割合)	1%
設備	10%		損傷なし。	—	—	0%
建物全体(100%)の損害割合(各部位の損傷率の合計)						7%

建物全体の損傷率が10%に満たない

「準半壊に至らない(一部損壊)」